

## 会 議 録

会 議 の 名 称	令和3年度第1回ひたちなか市障害者自立支援協議会	
開 催 日 時	午後1時30分から 令和3年6月24日(木) 午後2時35分まで	
開 催 場 所	ひたちなか市役所第3分庁舎2階防災会議室1・2	
出 席 者	委員(者)氏名	ひたちなか市視覚障害者福祉協会副会長 皆川 妙子 ひたちなか市聴覚障害者協会副会長 富川 己幸希 ひたちなか市障害児者育成会副会長 石津 守代 ひたちなか地域家族会副会長 高橋 光三 社会福祉法人はまぎくの会理事長 有阪 加奈子 特定非営利活動法人生活支援ネットワークこもれび理事長 榎田 美紀子 社会福祉法人オクスウェルウェア障害者支援施設オクスウェル施設長 鹿志村 浩史 社会福祉法人北養会就労支援センター北勝園みなと館サービス管理責任者 谷田部 敬司 社会福祉法人勇成会障がい者サポートセンターなの花 施設長 岡野 益寿美 社団法人ひたちなか市医師会医師 柳澤 宏実 茨城県ひたちなか保健所保健指導課 課長 田邊 好美 ひたちなか市社会福祉協議会地域福祉課長 寺山 聡 ひたちなか市福祉部部長 森山 雄彦
	担当部課職員職氏名	福祉部福祉事務所 障害福祉課 課長 笹沼 義孝 係長 黒澤 一彦 係長 石崎 清顕 主事 本田 悠樹
会 議 次 第 及 び 会 議 の 公開又は非公開の別	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事【公開】 (1)自立支援協議会専門部会の設置等について 4 その他 5 閉会	
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場合)		
傍 聴 者 の 数	0人	
会 議 資 料 の 名 称	・令和3年度第1回ひたちなか市障害者自立支援協議会次第 ・ひたちなか市障害者自立支援協議会名簿 ・自立支援協議会専門部会の設置等について【資料1】	
会 議 録 の 作 成 方 法	要約筆記	
そ の 他		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、決定事項等）

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1)自立支援協議会専門部会設置等について

事務局より概要説明を行った。【資料1】

質疑応答の主なものは次のとおり。

【委員】資料1中のP6に「課題解決のため再度部会において協議を進めていく必要がある」とあるが、これまでの防災専門部会の取り組みについて、詳細を改めて説明して欲しい。

【事務局】当市に専門部会が未設置であったため、人数や構成等、「部会のあり方」を検討するために1年間限定で防災専門部会として取り組んでいた経緯がある。部会の活動としては、総合防災訓練に事業所職員や利用者が参加したり、福祉避難所のあり方を協議した。障害者が安心して過ごせる福祉避難所の運営方法等を早期に決めるべく、今後は防災専門部会を設置し定期的に協議していく。

【委員】実際の事例等から、よりよい福祉避難所のあり方等を部会で協議するため、臨時であったものを今後は常設するという認識でよいか。

【事務局】ご意見のとおり、今後は常設する。実際に検証が必要な具体事例が発生することも想定されることから、市防災部門の生活安全課とも連携し、よりよい福祉避難所の運営について検討していきたい。

【委員】部会の構成団体は、市が選定し依頼するのか。既存の団体（ひたちなか・那珂・大洗・東海地域福祉団体連絡協議会）では構成が知的・精神障害が中心のため意見に偏りがでないか危惧している。

【事務局】市が選定し依頼する方法を考えている。相談支援専門部会については、既存の相談支援事業所連絡会の中で、部会について賛同いただける事業所にご参加いただく方法を考えている。防災専門部会については、引き続き地域福祉団体連絡協議会に依頼する予定である。

【委員】部会の開催頻度については、どのように考えているか。

【事務局】過度な負担とならないよう、2ヶ月に1回程度の開催を想定しているが、今後、各団体と協議しながら決めていきたい。

【委員】これまで毎月、相談支援事業所連絡会を開催してきたので頻度が減ることはない。市内の相談支援事業所は協力的であり、事業所や市と協力しながら部会の体制づくりをしていきたい。地域生活支援拠点や基幹相談支援センターの設置にしても、当事者の声を行政に届け、反映させることが重要であり、部会としても考えていきたい。相談支援専門部会のあり方について、各委員の要望・意見を聞きたい。

【委員】防災専門部会について、初めは既存の団体でもいいと思うが、将来的には構成も含め考えていくべき。

【委員】障害福祉サービス事業所では、利用者のモニタリング以外で相談支援専門員と十分に話す機会がないのが現状である。情報収集の方法や得た情報を周知する方法等が課題かと考えている。

【委員】相談支援事業所連絡会、地域福祉団体連絡協議会のいずれも構成等を把握していない事業所も多い。当事業所も同様に、利用者のモニタリング等以外では相談員や他事業所との付き合いがないのが現状である。今年、通所者のコロナ関連で関係機関への電話連絡に奔走した経験があり、1か所に情報が集約される仕組みがあるとありがたいと感じた。

【委員】決定事項に協力していきたい。特に意見はない。

【委員】 自立支援協議会本会と部会の違い等がよくわからない。防災専門部会は生活安全課が事務局なのか。

【事務局】 協議会本会は今日出席いただいている、この会議のことである。防災専門部会の構成は地域福祉団体連絡協議会であり、事務局として市障害福祉課や生活安全課も参加する予定である。相談支援専門部会は、障害福祉サービスの計画相談支援を行う指定特定相談支援事業所の相談支援専門員が構成することとなる。「相談」という表現のため紛らわしいが、市から委託される障害者相談員とは別であり、当事者として、部会にご参加いただく可能性はある。

【委員】 2つの専門部会に共通する点だが、特に防災専門部会については、防災に関する課題は福祉避難所だけに限らず多岐にわたる。そのため、テーマを絞る必要があると感じている。本会で部会の課題を決めて提示することも対応の一つとして考えられる。

【委員】 自立支援協議会の存在や協議された内容が、市民に周知されていないと感じる。当事者や事業所、教育機関等にも協議された内容を知ってもらいたい。周知する方法等は考えているか。

【事務局】 これまで十分に周知できていないのは事実であり、今後、周知方法等は検討していきたい。部会についても本会同様に周知方法は検討していく。

【委員】 相談支援事業所連絡会や地域福祉団体連絡協議会の構成や活動等の情報があれば、普段交流のない各委員の理解も得られやすいと感じた。防災専門部会については、地域全体のことを考え、障害に偏りがないような構成にすべきと考えている。

【委員】 避難時に視覚障害者の手引き移動について、本当に支援してもらえるのか、周囲に理解されているのかを不安に感じている。災害ではないが、コロナ関連で保健所にPCR検査を受けるよう指導されたが、移動が困難であることを相談し、最終的に保健所に送迎してもらった。周囲の理解があるかは常に不安を感じている。

【事務局】 市では障害者理解促進事業を行っている。災害避難に限らず、障害に関する理解・周知の場を設けることもできるので、当事者、ご家族で何かお困りのことやご意見があれば市までお願いしたい。

【委員】 実績ある既存の団体を母体として専門部会を設置するという事務局の提案は理解できるが、既存の団体に関する情報等が不足しているため、各委員の共通認識になっていないと感じた。資料等で情報を提供したうえで、改めてご判断いただく形がいいのではないか。

【事務局】 本日の全体をとおした意見や前述の委員の提案も踏まえ、情報が不足している既存団体に関する資料やアンケート等を後日、各委員に郵送する。事務局で意見を取りまとめの上、後日、書面で相談支援専門部会と防災専門部会の設置の可否について、判断を仰ぐ形をとらせてもらいたい。

4 その他

5 閉会

以上